分科会報告書について

すでに評価委員会の総合報告でも述べられているように, 今回の評価では各ビームラインの整備状況，性能，サイエンティフィックなアクティビティー及び将来性などについて評価することが一つの目的であった. ビームラインを個別に評価するために，サイエンティフィックな分類をもとに（1）電子物性，（2）構造物性，（3）材料，（4）化学，（5）生命科学の 5 つの分科会を設け，全てのビームライン担当者が一つあるいは 2 つの関連する分科会でプレゼンテーションを行い, 質疑応答が行われた．この日程は以下のとおりである.

分科会でのヒアリング日程

電子物性分科会	平成 13 年 9 月 26 日	於 KEK・PF
構造物性分科会	平成 13 年 9 月 27 日	於 KEK・PF
材料・化学合同分科会	平成 13 年 10 月 5 日	於 KEK・PF
生命科学分科会	平成 13 年 9 月 18 日	於 KEK・PF

5 つの分科会では，これらのプレゼンテーションおよび事前に PF から提出されている資料「Beamline Performance and Scientific Activity at the Photon Factory」を元にビームライン毎の評価を行った．ただし，Sweet 博士を除いた外国人評価委員には, 上記資料を送付しそれを見てのコメントを文書にて受けとった. Sweet 博士は, 現場を見ること及びスタッフと直接会話することを望まれたので，PF を訪問したうえでコメントをいただいた. 実験用エンドステーションまでを含んだビームライン全体としての装置および方法論については，5 つの分科会から 1 名ずつが選ばれた（6）装置・方法論開発分科会を設置して評価を行った．以下，それぞれの分科会での評価報告および各分科会に関連するビームライン毎の評定票を掲載する. この評定票ではビームラインのアクティビティーおよび性能についての客観的な評価，さらに将来にわたる提言が細かく記載されており，今後の PF の運営を考えていく上で重要なものである．装置・方法論開発分科会では，ビームラインの評定票は作成しておらず，評価報告のみを掲載する.